



第66号 筑紫丘高校同窓会 福岡市南区野間2-13-1 〒815-0041 電話092(561)0662 F A X 092(561)0663 ホームページ http://www.chikushigaoka-dousokai.com/ 印刷 西日本新聞印刷



同窓会HP [QRコード]

全面改築前に校舎開放 「筑高ホームカミングデー」

卒業生789人来校 思い出深い教室で交流

創立百周年の校舎全面改築に向けて、いよいよ令和2年度から第1期工事が始まります。思い出の校舎の姿が次第に変わっていく前に、在学中の教室で当時のことを振り返り、筑高への思いを新たにしよう。そんな思いで、令和元年8月12日に「筑高ホームカミングデー」と銘打って校舎開放を行いました。

折しも同窓会の組織改編で交流委員会が発足、その最初の事業として位置付けられました。準備会議の中で「一人でも多くの参加を」「当日の運営ボランティアの募集は」などさまざまな意見が出され、課題を一つずつクリアしてきました。常任幹事の呼びかけやフェイスブックでの広報によって申し込みが急増しました。

当日は参加者が途切れることなく続き、講堂、体育館、社会科教室を巡る校内見学ツアーは、想定をはるかに上回る参加者でした。集計ではこの日に合わせて学年同窓会を開いた高65回生の122人を最高に、上は高4回生から新卒の高71回生まで幅広い年代が参加し、総数789人と

折しも同窓会の組織改編で交流委員会が発足、その最初の事業として位置付けられました。準備会議の中で「一人でも多くの参加を」「当日の運営ボランティアの募集は」などさまざまな意見が出され、課題を一つずつクリアしてきました。常任幹事の呼びかけやフェイスブックでの広報によって申し込みが急増しました。

また、終日受付で笑顔を見せて対応してくれた高71回生をはじめ、多くの同窓生に協力いただきました。改めて深く感謝申し上げます。総会とはまた違った会員相互の交流の機会になったと思います。これをきっかけに、創立百周年に向けてさらに多くの方が母校筑紫丘高校と同窓会の活動に関心を寄せてくだされば幸いです。

(宮本智朗 高38)



懐かしい教室で椅子に座ったり、写真を撮ったりする来校者たち

年頭 あいさつ

組織刷新で母校支援を

会長 生田 征生(高15)



会員の皆様がご健勝にて新年を迎えられましたことを心よりお喜び申し上げます。

折しも同窓会の組織改編で交流委員会が発足、その最初の事業として位置付けられました。準備会議の中で「一人でも多くの参加を」「当日の運営ボランティアの募集は」などさまざまな意見が出され、課題を一つずつクリアしてきました。常任幹事の呼びかけやフェイスブックでの広報によって申し込みが急増しました。

他方、同窓会は昭和、平成令和と3代を経て、会員総数約3万8千名となっており、創立100周年に向けて、同窓会の一層強固な組織作り、より充実した活動を行うために、新たに発足させた5委員会がそれぞれ活動を開始しています。交流委員会が昨年夏に行った「ホームカミングデー」(本年より校舎全面改築が始まる前の、現校舎を見ていただく企画)では、ボランティアと参加者を合わせて約800名の催しとなり、大

ホームカミングデー 来校者に聞いた

今村豊さん(高6) 熊本県合志市

(教室の椅子に座り、どの辺に座っていたかな、と思いつつ出しながら)昔の家を探しているような気持ち。変わったな、立派になったなと思う。聞かえてくる母校の風評と一致している。素晴らしい。

米倉(横尾)朋子さん(高52) 東京都

フェイスブックで知り、同期生と来ました。床や机も昔のまま。やっぱり古くなっているという印象。冷房があるのにはビックリ。中庭の景観も良かったなあ。

簡井卓也さん(高43) 福岡市

立派な講堂ですね。校舎改築の時期に娘(現在中2)が入学できればと思いついてきました。娘に校内の空気を吸わせたかったし…(笑)。

大坪裕明さん(高53) 福岡市

慣れ親しんだ校舎との別れは、なんだか寂しい気持ちになりましたが、青春時代に帰ることができて、とても良い一日でした。校舎を歩く度によみがえる、あの時の教室の広さも、壁の落書きも、蒸し暑い廊下も、古びたトイレ(笑)もすべて胸に焼き付けて、母校への愛を再認識できました。

盛況でした。

母校は毎年送り出す卒業生が優秀な成績を収め、進学校の中でも常に上位のランキングに入り、高い評価を受けております。それらの在校生の支援で、同窓会設立の「教育支援基金」を基に毎年優秀な生徒への教育支援を行っております。来るべき100周年では、より母校への支援を行うおうと組織の刷新・強化を図る所存です。100周年の支援事業に向け、同窓会会員各位におかれましては、1

人1万円以上の積み立てを目標に設定していただき、母校の発展に寄与する寄付をお願い申し上げます。

私は体調を壊し、この1年ほとんど同窓会に関われず、大変ご迷惑、ご心配をお掛けいたしましたこと、誠に申し訳なくお詫び申し上げます。この1年間の皆様方のご健康とご活躍をお祈りするとともに、ご協力とご理解、ご支援をお願いし、年頭の挨拶といたします。

これに呼応して、生徒有志と担当教員による「プロジェクトM」(Mとはモニユメントの頭文字)が活動を始めました。これは、校舎建て替えに備えて校内にある石造物などの調査と確認を行うものです。校誌や周年記念史をもとに、OBの方の指導のもと石造物などを拓本にし、謂れを分析し、資料化しています。さらに、卒業生から情報を収集して、見えないモニユメント(タイムカプセルなど)についても調べています。

新年 あいさつ

校舎改築も教育継続も

校長 立光 敏弘



同窓会の皆様、明けましておめでとうございます。日ごろから物心両面のご支援とご協力ありがとうございます。

折しも同窓会の組織改編で交流委員会が発足、その最初の事業として位置付けられました。準備会議の中で「一人でも多くの参加を」「当日の運営ボランティアの募集は」などさまざまな意見が出され、課題を一つずつクリアしてきました。常任幹事の呼びかけやフェイスブックでの広報によって申し込みが急増しました。

折しも同窓会の組織改編で交流委員会が発足、その最初の事業として位置付けられました。準備会議の中で「一人でも多くの参加を」「当日の運営ボランティアの募集は」などさまざまな意見が出され、課題を一つずつクリアしてきました。常任幹事の呼びかけやフェイスブックでの広報によって申し込みが急増しました。

折しも同窓会の組織改編で交流委員会が発足、その最初の事業として位置付けられました。準備会議の中で「一人でも多くの参加を」「当日の運営ボランティアの募集は」などさまざまな意見が出され、課題を一つずつクリアしてきました。常任幹事の呼びかけやフェイスブックでの広報によって申し込みが急増しました。

折しも同窓会の組織改編で交流委員会が発足、その最初の事業として位置付けられました。準備会議の中で「一人でも多くの参加を」「当日の運営ボランティアの募集は」などさまざまな意見が出され、課題を一つずつクリアしてきました。常任幹事の呼びかけやフェイスブックでの広報によって申し込みが急増しました。

折しも同窓会の組織改編で交流委員会が発足、その最初の事業として位置付けられました。準備会議の中で「一人でも多くの参加を」「当日の運営ボランティアの募集は」などさまざまな意見が出され、課題を一つずつクリアしてきました。常任幹事の呼びかけやフェイスブックでの広報によって申し込みが急増しました。

折しも同窓会の組織改編で交流委員会が発足、その最初の事業として位置付けられました。準備会議の中で「一人でも多くの参加を」「当日の運営ボランティアの募集は」などさまざまな意見が出され、課題を一つずつクリアしてきました。常任幹事の呼びかけやフェイスブックでの広報によって申し込みが急増しました。

折しも同窓会の組織改編で交流委員会が発足、その最初の事業として位置付けられました。準備会議の中で「一人でも多くの参加を」「当日の運営ボランティアの募集は」などさまざまな意見が出され、課題を一つずつクリアしてきました。常任幹事の呼びかけやフェイスブックでの広報によって申し込みが急増しました。

折しも同窓会の組織改編で交流委員会が発足、その最初の事業として位置付けられました。準備会議の中で「一人でも多くの参加を」「当日の運営ボランティアの募集は」などさまざまな意見が出され、課題を一つずつクリアしてきました。常任幹事の呼びかけやフェイスブックでの広報によって申し込みが急増しました。



令和2年度総会実行委員長 松延知哉(高43)

私たちが高43回生は昭和最後の時代が大きく動く中、前総会実行委員長よりたすきを引き継ぎました。令和は母校が100周年を迎える時代に幹事学年の大役を務めさせていただきます。

折しも同窓会の組織改編で交流委員会が発足、その最初の事業として位置付けられました。準備会議の中で「一人でも多くの参加を」「当日の運営ボランティアの募集は」などさまざまな意見が出され、課題を一つずつクリアしてきました。常任幹事の呼びかけやフェイスブックでの広報によって申し込みが急増しました。

創立100周年へ 5委員会、議論活発に

同窓会どう発展させる

昨年度、同窓会本部に設置された5つの委員会では、同窓会の実務的役割を担うとともに、創立100周年に向けた議論が活発に行われています。それぞれの委員会には本部長が担当役員として配置されており、各委員会の活動進行状況は役員会で共有されるなど、同窓会をいかにして発展させていくかを全組織的に議論しています。縦横のつながりを活用しながら今後も活動を進めていきます。

整備委員会

物故者名簿の整備着手
整備委員会の主な任務は、「ルールづくり」と「名簿整備」です。

まずは、透明性を確保するために会則を含めた各種ルールの確認・見直しを進めています。

名簿整備については近年、個人情報保護の観点から整備が進みましたが、各支部などからの要望も強く、何とかきちんとしたものを作成したいと考えています。冊子にはこだわらず、弁護士と同窓生などを委員に迎え、法令遵守の上、いかにして名簿の整備を進めるかなどを議論しています。

また、近年未実施だった物故者名簿の整備に年始から取り掛かることを決め、100周年に向け、同窓会組織の根幹となる名簿の充実を進めていきます。

交流委員会

総会収支など検証

交流委員会は「総会」「地域・職域同窓会」「就活支援・社会人交流」「イベント」の4部会で活動しています。

進めています。

IT部門は「卒業生が集う、使う。ぶつぎり日本一の同窓会WEBサイト」を目指して、「IT」をテーマに掲げ、八尋部長(高48)、小川(高36)、関・芝山・古城戸(高50)らの会員を中心に検討を進めています。今後、ライン@の開設計画も進め、同窓生リレーコラムなど多彩なコンテンツを立ち上げる予定です。

興味のある方は綾部までご連絡を。

(担当理事 綾部純子 高36)

財団設立など議論

支援委員会は母校・現役生への支援を目的として設立された委員会です。

支援を実施するには、まずは原資の確保が必要です。そこで他校の活動も参考にしながら、原資確保の手法の検討を進めています。

現時点では「公益財団法人(奨学金財団)の設立」と「ふるさと納税」の活用が議題として浮上。各界で活躍する同窓生から多くの寄付をいただけるよう、いかにして寄付しやすい形を作るかということを中心に議論しています。

創立100周年に向け、校舎の建て替えも予定されていますので、まずは受け皿づくりです。

(副担当理事 前川健太)

研究会では、現役生・同窓生を対象としたセミナー・講演会などの研さん事業の在り方や今後の取り組み

について検討しています。

幅広い年代・経歴の同窓生メンバーにより、5回の会議を重ねてきました。人生100年時代を迎え、リカレント教育、働き方、SNS等のコミュニケーション、外国人との共生、健康問題など多様なテーマを取り上げ、どのような研さん事業に今後取り組んでいくべきか、協議をしているところです。

(担当理事 原田ゆみ子 高20)

幅広の年代・経歴の同窓生メンバーにより、5回の会議を重ねてきました。

人生100年時代を迎え、リカレント教育、働き方、SNS等のコミュニケーション、外国人との共生、健康問題など多様なテーマを取り上げ、どのような研さん事業に今後取り組んでいくべきか、協議をしているところです。

(担当理事 原田ゆみ子 高20)

幅広い年代・経歴の同窓生メンバーにより、5回の会議を重ねてきました。

人生100年時代を迎え、リカレント教育、働き方、SNS等のコミュニケーション、外国人との共生、健康問題など多様なテーマを取り上げ、どのような研さん事業に今後取り組んでいくべきか、協議をしているところです。

(担当理事 原田ゆみ子 高20)

幅広い年代・経歴の同窓生メンバーにより、5回の会議を重ねてきました。

人生100年時代を迎え、リカレント教育、働き方、SNS等のコミュニケーション、外国人との共生、健康問題など多様なテーマを取り上げ、どのような研さん事業に今後取り組んでいくべきか、協議をしているところです。

(担当理事 原田ゆみ子 高20)

幅広い年代・経歴の同窓生メンバーにより、5回の会議を重ねてきました。

人生100年時代を迎え、リカレント教育、働き方、SNS等のコミュニケーション、外国人との共生、健康問題など多様なテーマを取り上げ、どのような研さん事業に今後取り組んでいくべきか、協議をしているところです。

(担当理事 原田ゆみ子 高20)

幅広い年代・経歴の同窓生メンバーにより、5回の会議を重ねてきました。

人生100年時代を迎え、リカレント教育、働き方、SNS等のコミュニケーション、外国人との共生、健康問題など多様なテーマを取り上げ、どのような研さん事業に今後取り組んでいくべきか、協議をしているところです。

九州がんセンター 院長講演

「がんのイメージに変化」 後輩へのメッセージも

開校記念講演会が昨年7月、講堂で開かれ、国立病院機構九州がんセンター(福岡市南区)院長の藤也才志(とう・やすし)氏(高29)の講演が在籍生に向け「今、がん医療について」と題して行われました。



開校記念講演会が昨年7月、講堂で開かれ、国立病院機構九州がんセンター(福岡市南区)院長の藤也才志(とう・やすし)氏(高29)の講演が在籍生に向け「今、がん医療について」と題して行われました。

藤氏は長年がん医療に携わってきた医師としてがん治療に関する話を中心に、最新のデータや最先端の治療法などについて紹介しました。初めにがんを取り巻く環境が年々変化していることを語り、現在2人に1人ががんを患い、3人に1人ががんで死亡しているという人もいるなど、元氣な70歳の仲間たちでした。

祝、関西支部設立35周年
福岡と母校のビデオ上映も
母校ラグビー部の全国大会初出場をきっかけに設立された関西支部。昨年35周年を迎えた支部総会・親睦の集いは、ラグビーW杯準決勝と同じ10月27日でしたが、新阪急ホテルに96人が集まりました。

特別企画の吹奏楽部OB・OGによる演奏会、福岡の懐かしいスポットと建て替え前の山の手を延ばすなど、本格的に足をとって汗を流している人が何人もいて、健康志向をうかがわせました。「家電業界を退職後、熊本県玉名市でファーマー(農民)をしている」と話した男性には「野菜を取れたら送って」と大きな拍手が送られました。

「市議会議員をしていた」「介護事業に取り組んでいる」

約100人が集まった関西支部の同窓会

「市議会議員をしていた」「介護事業に取り組んでいる」

約100人が集まった関西支部の同窓会

「市議会議員をしていた」「介護事業に取り組んでいる」

紹介する場面もあり、そのリアルさに驚きや感心の声が多岐に及びました。

さらに、生徒たちに向けて「海外へ積極的に出てほしい。グローバルな視点を持つことで日本の美点や価値観を再確認できる」と国際的なものの見方の大事さを強調。「筑高の校歌は素晴らしい。誇りを持ってほしい」「筑高の仲間を頼りにする。友達という宝を大切に」などと後輩を思いやるメッセージも伝えました。

後までトライを取りに突進する試合に感動しました。そして藤野応援団長のもと応援歌と校歌の大合唱! これぞ同窓会!! (大庭敬子 高30)

新元号初のスクラム
令和元年度総会実行委員長 長音 隆義(高42)

会が昨年6月、ホテルニューオータニ博多で開催されました。高42回117人が当番幹事を務め、「筑高スクラム」のテーマのもと、全国各地から853人の同窓生にご参加いただきありがとうございました。

懇親会はアテイストとして活躍する高61回の河野万里奈さんによる校歌独唱からスタート。恒例の賀寿式典、筑高体操、応援歌・校歌斉唱に加え、全員参加型アトラクション「筑高ウルトラクイズ」で会場の一体感を醸成し、同窓生一同がしっかりとスクラムを組むことができました。

私たちが高校30回生は還暦を迎え、お互いにお祝いしようという旅行を計画。男性7人、女性7人が10月5、6日にヒマワリの待つ筑後川河畔の原鶴温泉に集いました。

5日はW杯ラグビーの日本対サモア戦。温泉で心をほぐし、夕食で体力をつけて、部屋に集合しての観戦。ビール片手に、ワイワイ! 得点のたびに乾杯と大歓声! 一気に高校時代の運動会や部活の気分がタイムスリップ! 最

大歓声でTV観戦

大歓声でTV観戦

大歓声でTV観戦

大歓声でTV観戦

大歓声でTV観戦

ザ・部活

「プロジェクトM」始動

校内の記念碑など調査 100年の歴史正確に郷土研究部との共同企画

筑高100周年に向けて、本校敷地内に点在する記念碑などをデータベース化し、新校舎建築で損なわれることなく、本校の歴史を正確に伝えること、タイムカプセルの情報を収集、発掘することを目的として5月、校内に「記念碑等の追憶プロジェクト」を立ち上げました。通称「プロジェクトM(モニユメント)」で、郷土研究部との共同企画と位置づけています。

昨年4月、立光敏弘校長の発案で始動しました。スタッフは1年生徒と教職員として、5月に生徒募集要項を各教室に掲示。翔丘祭の一般公開日(5月18日)に記念碑などの分布図・写真・解説をポスターにする作業を進め、1年9組の生徒たちの協力で完成しました。郷土研究部の会場に展示したところ好評でした。

翔丘祭後、4人の1年生男



生徒たちが取った校歌碑(高木市之助自筆)の拓本

子が応募してくれました。7組の綾部孝一君、伊藤登人君、米倉玲良君、8組の大森天晴君に郷土研究部部長の2年1組今林潤世君を合わせて5人で始動しました。教職員スタッフは地歴公民科の一ノ瀬泰宏(リーダー)、久我純一の両教諭。

6月6日の第1回研修会で特別講師として拓本の知識と技術に詳しい加藤久嘉先輩(定15・元事務局長)を紹介し、石碑の拓本方法をスタッフ全員に教授してもらいました。それ以降、月に1、2回、加藤先輩の指導の下、全員で拓本を何枚も取りました。文字を正確に読み取ることができ、中には新たな事実が判明したこともありました。加藤先輩は生徒たちの熱心に取り組み姿や拓本技術の上達ぶりに目を細め、褒めていました。

(一ノ瀬泰宏教諭 高36)

大好きな仲間と大好きなことができる「今」という時間のありがたさ、かけがえのないことを締め、だれよりも楽しむことを忘れず、全力を尽くす私たちは、これからもさらなる高みを目指して日々前進していきます。

2月に宮崎県で行われる九州高総文祭にも部員12人が福岡県代表として出場します。これからもより一層の応援をどうぞよろしくお願いします。

(2年 西村奈々子)

1ラウンドの51チーム一斉早押しクイズでは5回解答権を得ましたが、第2ラウンド進出はできませんでした。とはいえ十分に「楽しむ」ことができ、満足しています。

私たち3年生はリベンジできませんが、今年の高校生クイズで、3年連続全国大会出場と全国大会第1ラウンド突破を目指す後輩たちに期待しています。出場 3年3組 宮里麻央・同11組 安部智哉

▼同 中野仁詩



陸上部

37人が刺激し合い

現在、男子選手20人、女子選手17人、マネージャー4人が所属。顧問の先生方4人のご指導を受けています。男女ともに人数が多く仲の良さが特徴です。お互いに励ましあい、刺激しあうことにつながり、練習に取り組んでいます。練習は月々土曜日の週6日。

今年度の公式戦では、夏のインターハイ予選県大会に7種目出場。北部九州大会には女子八百員・女子走り高跳びで2人、沖縄インターハイにも女子走り高跳びの選手が出場しました。県新人陸上大会には9種目9人が、11月の県高校駅伝にも出場しました。

現2年生チームに引き続き2年連続の出場となりました。

3人の得意分野は異なっている上にチームワークも良く、7月の全国一斉予選を全国4位、県1位で通過。県代表決定戦では久留米大附設の1年生チームを下しました。

近年の高校生クイズは、知識よりもひらめきや頭の柔らかさが必要とされる傾向。第

仲良く、でも先輩への敬意を常に持つメリハリのある部活です。短時間のけいこで集中して日々レベルアップし、男女とも県大会出場を目指しています。OBの先輩方が毎日といつてもいいほど練習に来てくださり、おかげで部活が成り立っているといえます。

私はこのような剣道部でいことができることを誇りに思っています。先生、先輩、保護者の方々、また仲間たちがいなければ絶対できませんでした。5人抜きをできなかったことが少しでも恩返しになつたらうれしいです。これからも剣道部みんな頑張っていきますので、応援のほどよろしくお願いします。

(2年 上屋 風沙)

高32回生は前年から準備を進め、練習ラウンドを企画して雰囲気盛り上げました。同級生は高級酒などを賞品として提供、農業関係者は参加賞の新米2キを特価で準備してくれました。

来年からは本部の交流委員会がお世話をするようになりませんが、昨年以上の盛り上げを祈念しております。

(水城 淳 高32)

「青瞬続け」と願った

運営委員長

3年11組 柴田亜由子

大人は常に妄想に憑かれたように現実を語り、私たちはどこまでも大胆に恐れを知らないのだ。

今年の翔丘祭のテーマは「青瞬」。青という字は高校生としての青さと爽やかさを、瞬という字は一瞬の輝きと刹那さを表します。「高校生のこの青い一瞬の輝きを永遠に」という思いを込めました。今にして思えばテーマ通り一瞬の翔丘祭でした。そこには成功も失敗もなく、輝く記憶とともに、絶対的に終わってしまったのです。

大運動会

仲間の大切さ痛感

運営委員長

2年 山上 晴哉

私はこの運動会で学んだことは2つあります。

1つ目は、仲間を助けてもらうことの大切さです。私は多くの人に助けられました。先生からアドバイスや指導をしてもらったり、同じ運営の仲間には自分にはできないことをしてもらったり、家族や友人から励ましの言葉をもらったりしました。私一人の力では、何も成し遂げられなかったと思います。だからこそ、この運動会に関わったすべての人に感謝したいです。

2つ目は、自分を見つめ直すことの大切さです。私は運営委員長である以上、さまざまなことを把握し、考えて行動する必要があることが明確ではなくなっていました。しかし周りの人からの助言を借りながら、すべきことが分かっただけで済みました。

この運動会を通じて筑紫丘の伝統を感じ、その伝統に運営委員長として携わったことをうれしく思います。

吹奏楽部

結成60周年・定演第50回 藪、松田両教諭の追悼も

昭和32(1957)年、混声合唱団だった音楽部は、運動会のクラブ対抗演奏行列で軍楽隊行進を演じて拍手と喝采を浴びました。これを機に部内に楽器を持ち寄る部員が増え始め、中古や払い下げ品を集めて、ついに昭和34年の文化祭で吹奏楽団として演奏を初披露。これ以降、音楽部には合唱と吹奏楽の2グループが存在することになりましたが、昭和38年の文化祭を最後に吹奏楽団に統一されました。

昭和45年にOB会結成と

もに定期演奏会がスタートし、昭和58年には名称も吹奏楽部に変更されました。

令和という新時代に入った昨年の翔丘祭が、初披露から61年目の演奏となり、8月に開催した定期演奏会も第50回という記念の会になりました。第1回から続く伝統の合同演奏では、現役61名にOB72名が加わり、大迫力の筑高サウンドを響かせました。

昨年は吹奏楽団生みの親の藪博之先生(昭和32年から10年間勤務)と、全国大会に2年連続で導いた松田和晏先生

百一人一首部

百一人一首部は2年生20人、1年生13人で活動しています。昨年7月、滋賀県の近江神宮で行われた第41回全国高校小倉百人一首かるた選手権大会団体戦で、4位という好成績を残すことができました。その翌日の個人戦でも多くの入賞者を出すことができました。

クイズ研究会

2年連続全国大会出場

私たちは昨年夏、日本テレビ主催の「全国高校生クイズ選手権大会」に福岡県代表として出場しました。筑紫丘高としては、前回大会県代表の現2年生チームに引き続き2年連続の出場となりました。

剣道部

玉竜旗で5人抜き

私の所属する剣道部は男女とも仲間が良く、先輩後輩も

第28回筑中・筑高ゴルフコンペ大盛況

第28回筑中・筑高ゴルフコンペが昨年10月17日、筑紫ヶ丘ゴルフクラブで開かれ、総勢117人が集いました。最高齢は中18組で、歳を全く感じさせない素晴らしいプレーを見せてくれました。優勝は高22の養原清隆さんで、スコアはグロス85、ネット69・4でした。

翔丘祭

「青瞬続け」と願った

運営委員長

3年11組 柴田亜由子

大人は常に妄想に憑かれたように現実を語り、私たちはどこまでも大胆に恐れを知らないのだ。

今年の翔丘祭のテーマは「青瞬」。青という字は高校生としての青さと爽やかさを、瞬という字は一瞬の輝きと刹那さを表します。「高校生のこの青い一瞬の輝きを永遠に」という思いを込めました。今にして思えばテーマ通り一瞬の翔丘祭でした。そこには成功も失敗もなく、輝く記憶とともに、絶対的に終わってしまったのです。

昭和32(1957)年、混声合唱団だった音楽部は、運動会のクラブ対抗演奏行列で軍楽隊行進を演じて拍手と喝采を浴びました。これを機に部内に楽器を持ち寄る部員が増え始め、中古や払い下げ品を集めて、ついに昭和34年の文化祭で吹奏楽団として演奏を初披露。これ以降、音楽部には合唱と吹奏楽の2グループが存在することになりましたが、昭和38年の文化祭を最後に吹奏楽団に統一されました。

昭和45年にOB会結成と

もに定期演奏会がスタートし、昭和58年には名称も吹奏楽部に変更されました。

令和という新時代に入った昨年の翔丘祭が、初披露から61年目の演奏となり、8月に開催した定期演奏会も第50回という記念の会になりました。第1回から続く伝統の合同演奏では、現役61名にOB72名が加わり、大迫力の筑高サウンドを響かせました。

昨年は吹奏楽団生みの親の藪博之先生(昭和32年から10年間勤務)と、全国大会に2年連続で導いた松田和晏先生

百一人一首部

百一人一首部は2年生20人、1年生13人で活動しています。昨年7月、滋賀県の近江神宮で行われた第41回全国高校小倉百人一首かるた選手権大会団体戦で、4位という好成績を残すことができました。その翌日の個人戦でも多くの入賞者を出すことができました。

クイズ研究会

2年連続全国大会出場

私たちは昨年夏、日本テレビ主催の「全国高校生クイズ選手権大会」に福岡県代表として出場しました。筑紫丘高としては、前回大会県代表の現2年生チームに引き続き2年連続の出場となりました。

剣道部

玉竜旗で5人抜き

私の所属する剣道部は男女とも仲間が良く、先輩後輩も

第28回筑中・筑高ゴルフコンペ大盛況

第28回筑中・筑高ゴルフコンペが昨年10月17日、筑紫ヶ丘ゴルフクラブで開かれ、総勢117人が集いました。最高齢は中18組で、歳を全く感じさせない素晴らしいプレーを見せてくれました。優勝は高22の養原清隆さんで、スコアはグロス85、ネット69・4でした。

翔丘祭

「青瞬続け」と願った

運営委員長

3年11組 柴田亜由子

大人は常に妄想に憑かれたように現実を語り、私たちはどこまでも大胆に恐れを知らないのだ。

今年の翔丘祭のテーマは「青瞬」。青という字は高校生としての青さと爽やかさを、瞬という字は一瞬の輝きと刹那さを表します。「高校生のこの青い一瞬の輝きを永遠に」という思いを込めました。今にして思えばテーマ通り一瞬の翔丘祭でした。そこには成功も失敗もなく、輝く記憶とともに、絶対的に終わってしまったのです。



創立92周年の人文字で翔丘祭を祝う生徒たち

丘女会 イベント

歌人の松村由利子さん講演会 誰もが発信の社会に指針示す



丘女会による「卒業生による講演と音楽の集い」が昨年10月26日、母校講堂で開かれ、約160人が参加しました。



吹奏楽部OBの筑紫丘鉄管アンサンブルによるミニコンサートの後、歌人の松村由利子さん(高31)が

「ネット時代の情報の読み方」と題して講演しました。

奇しくもこの日は、松村さんが「第24回若山牧水賞」を受賞したとの報が入り、会場からはお祝いの言葉が掛けられました。

講演はインターネットの普及によりマスメディアを通じた情報発信から、誰もが発信できる社会へ変貌を遂げたため、フェイクニュースの横行や他者を排除し、同調圧力にさらされている現実をひも解いていきました。その上で「いったん落ち着く」「よく考える」「自分で調べる」「結論を急がない」「リアルを大事にする」の5項目を、この社会を生き抜く指針として挙げました。最後には、新聞を毎朝7、8紙読んでいたという、100年前の歌人と謝野晶子のメディアリテラシー(メディアを使いこなし、メディアからの情報を見極める能力)の例を紹介し、終了となりました。

講演は情報という波にあふれたこの社会を照らす羅針盤になったといえます。(上野志保 高41)

朔 啓二郎氏(高22) 福岡大学長に就任

朔氏は高校22回生です。昭和53年、福岡大医学部を卒業後、第二内科(現心臓・血管内科学教室)に入局。2年間の研修医のあと4年間米国オハイオ州シンシナティ大学の内科クリニックで修行。帰国後福岡大病院での医療業務とともに、35年にわたり医学教育に尽力され数多くの医師、医学教育者、医学研究者を世に送り出された。医学部長を6年間務められ、全国的にも著名な内科循環器関係医学者としてNHK教育テレビ『きょうの健康』にも出演された。



昨年12月、福岡大学長に就任された。任期は4年。本校の校医をされたお父様(筑中3回生)、国立新潟大学の教授をされたお兄様(高21回生)も卒業生です。(守部弘 高22)

東京研修 2年151人参加

本年度の東京研修は昨年7月31日から3日間、2年生を対象に実施されました。参加は男子77人、女子74人の151人。1日目は都内大学研修(10コース)、2日目は企業・つくば研修(9コース)、3日目は東京大学研修でした。1日目の夜には前年度に引き続き、みずほ銀行頭取の藤

(青木雄志教諭 高66)

温まる手紙もいただき、一生の宝物と感激しました。筑高更なる魅力をTV局勤務 斎藤 和也(高42) 事前の説 明会では、約20名の同級生が集められました。テレビ局からは2人で、もう1人はNHKでしたから、そちらに人気が集まるだろうと思いつつ生徒たちにどう楽しんでもらうか、悩みながら資料を作っていたのでした。

2年半前に同窓生たちと「歩け歩け故郷快足2時間通称歩こう会 別称アルコール会」を発足させた。毎週金曜日の昼間に1日も欠かさず。ここ半年の主なコースは「大野城・四王寺山史跡散策」「史跡元寇防塁を快歩」「博多湾クルージング&海の古道・志賀島」「井尻起点、那珂川遊歩道下り博多湾終点」「官幣大社香椎宮、名島城跡、多々良川歴史探訪」等。

(寄川研児 高21)



政権を中心
に記述され
通説では四
世紀半ばに
はヤマト王
権が成立し
たとされま
すが、当時
の地方の事

は全く無視されています。私の考えでは四世紀頃ではありませぬ。一つには謎の四世紀と言われる様に文字資料は極めて少なく、この時代は中国の歴史書、考古資料を手がかりとする他なく、考古学の年代測定法も又幾種類もあつて各々違う年代が出るのです。後から考えると相当アバウトで、有名な学者が言えは通つてしまつたという事件もありました。(旧石器捏造事件 平成12年) 正史と言われる日本書紀もデッチアゲのオンパレードであります。(紫式部が日記に書いています)

「校名に使われている筑紫 について」
読みはチクシ又ツクシでチクシの使用例が古く七世紀にありませぬ。地名説がある筑後風土記逸文によれば筑紫国と肥前との堺に荒ぶる神がいてそこを通る人達の命の半ばを奪つたという。その荒ぶる神を「人の命尽くしの神」と

言っていた。しかしこれではいけないと筑紫君(チクシノキミ)と肥の君(ヒノキミ)とが占つてミカヨリ姫を祭祀者となして祭らせたところ荒ぶる神が鎮まつて往来する人々に危害を加えなくなつたという。

七二〇年成立の古事記にはイザナギ命とイザナミ命が国生みをした時「筑紫島」を生みきとあります。面四つあり、筑紫国、豊国、肥国熊曾国の記述があり、筑紫国、筑前国と筑後国に分かれます。現在の地名として筑紫野市筑紫が残つています。他西鉄筑紫駅、筑紫神社等が隣接。関東人は読みを「つくし」と言つていて、学者達も同様です。私はそれを聞く度、今後はチクシと読んで下さいと言ひ続けました。フォーエバーチクシ!!

当日、校門への坂を上るにつれて緊張は高まりましたが、不安は全くの取り越し苦労でした。私はテレビ局がどうやって番組を作っているか、その裏側を話しました。視聴率というものの判断の仕方といった話も盛り込みました。講演を終えた同級生たちも生徒たちの聡明さに感心しきりでした。筑高の更なる魅力をつくるという意味でも、社会人講演会の充実は重要な意味を持つと実感しました。

特筆されるのが3月29日の「大宰府政庁跡&みかさの湯温泉と美酒佳肴」だ。新元号の未発表時に、偶然にも「令和」縁の坂本八幡宮を詣でたのは、正に「我が春も上々吉ぞ梅の花」だった。別称アルコール会の名は態を表すように、ゴールは高21回生が営む春吉の「おおとり」、博多駅南の「麴廻かわべ」等で愛酒楽酔を満喫している。

愛する故国で朋友知己と共に意気軒高、人生謳歌しとります。(寄川研児 高21)

古で学んだ

② クレージーキャッツの歌に似て

市須久岡本遺跡付近)の使者が光武帝の元へ挨拶に来た時金印(漢倭奴国王)を賜わつた事が記述され、その五〇年後、倭国王師升が奴隷百六十人を献上して来たことありませぬ。百歩譲つて四世紀頃ヤマト政権が成立しても筑紫には二〇〇年以上前に奴国があり、その後倭国が朝貢していたという2件の事実は北部九州に存在していた国に相違ありません。そして邪馬臺国は九州島内にあるに違いないでしょう。

演とは母校の1・2年生が将来像を語るという取り組み。同窓会総会当日の午前中に、幹事学年が講師を担当します。1・2年生は男女比が半々で理系が多いので、女性医師で近くにいる私に声掛けいただき、約30年間の自分を振り返る良い機会になりました。生徒たちからの質問を考えたり昔のアルバムを見返したりするうちに、忘れていた高校・大学生活・仕事や子育ての思い出がよみがえり、楽しい時間でした。

後輩の手紙に感激
医師 福永(田中)真理(高42)

宴座
従心の70歳を迎えて各学友の境涯を譜代(故郷不離組・親藩(故郷帰還組)・外縁(故郷別離組)と称している。小生は就職で上京して横浜、大阪、北京、東京、宇部など13回の引越を体験した。併せて全国と中国の著名な都市・名所旧跡、欧米の主要都市を大半は仕事で訪れた。異郷の地の生活を通して福博の町が世界一だと確信した。今は親藩の一員として終の棲家を構え日々郷土に感謝している。

2年半前に同窓生たちと「歩け歩け故郷快足2時間通称歩こう会 別称アルコール会」を発足させた。毎週金曜日の昼間に1日も欠かさず。ここ半年の主なコースは「大野城・四王寺山史跡散策」「史跡元寇防塁を快歩」「博多湾クルージング&海の古道・志賀島」「井尻起点、那珂川遊歩道下り博多湾終点」「官幣大社香椎宮、名島城跡、多々良川歴史探訪」等。

特筆されるのが3月29日の「大宰府政庁跡&みかさの湯温泉と美酒佳肴」だ。新元号の未発表時に、偶然にも「令和」縁の坂本八幡宮を詣でたのは、正に「我が春も上々吉ぞ梅の花」だった。別称アルコール会の名は態を表すように、ゴールは高21回生が営む春吉の「おおとり」、博多駅南の「麴廻かわべ」等で愛酒楽酔を満喫している。